



学校通信

とうよう

第8号
令和8年9月30日
泉大津市立東陽中学校
校長 花見 明子

東陽校区小中一貫教育校 重点教育目標 「誰とでもつながる力」の育成
学校教育目標 自己成長と挑戦

泉大津市立東陽中学校ホームページ



令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

※ 全国学力・学習状況調査(国語・数学・英語・生徒質問)は中学3年生対象です。

令和8年4月22日(水)23日(木)30日(木)実施の全国学力・学習状況調査結果について、本校の結果を報告します。3年生は返却された個人結果と合わせて確認し、学習計画の参考にして、令和8年度後半の学習を主体的に進めていきましょう。

【国語】

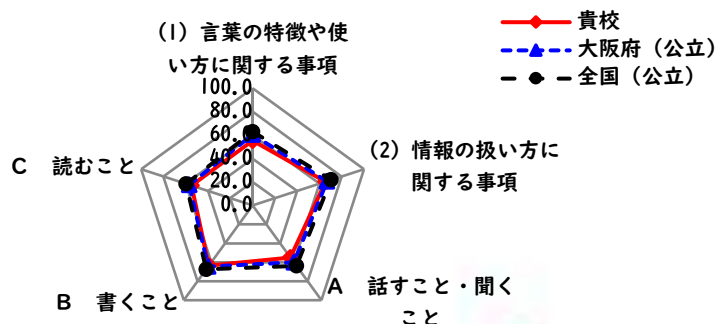
【グラフ1】全国学力・学習状況調査・学校(国語)

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
泉大津市立東陽中学校	171	8.6 / 15	57	9.0	3.4
大阪府(公立)	56,778	9.1 / 15	61	10.0	3.4
全国(公立)	841,873	9.6 / 15	63.9	10.0	3.3

【グラフ2】全国学力・学習状況調査・分類(国語)

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
				貴校	大阪府（公立）	全国（公立）
全体			15	57	61	63.9
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	5	55.3	60.4	63.0
		(2) 情報の扱い方に関する事項	1	65.5	66.8	70.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0			
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	55.0	60.2	63.9
		B 書くこと	3	63.5	64.5	67.4
		C 読むこと	3	54.8	56.8	59.7
評価の観点		知識・技能	6	57.0	61.4	64.2
		思考・判断・表現	9	57.8	60.5	63.7
		主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式		選択式	9	66.5	70.3	72.7
		短答式	3	48.9	52.5	55.8
		記述式	3	38.8	40.9	45.5

【グラフ3】全国学力・学習状況調査(国語) 正答数分布グラフ



[グラフ 4] 全国学力・学習状況調査(国語) 問題集計結果

問題 番号	問題の概要	出題の趣旨	貴校	大阪府 公立	全国 公立
3 一	文書作成ソフトに表示された意味と用例を参考にして、漢字を書き、漢字の組合せとして適切なものを選択する(とる)	文脈に即して正しく漢字を書き、語句の文章の中で使うことができるかどうかをみる	26.9	34.4	39.8
3 二	気持ちがより伝わるように、表現を工夫して書く	表現の効果を考えて描写することができるかどうかをみる	90.6	90.1	92.3
3 三	文章の展開の意図を説明したものとして適切なものを選択する	段落相互の関係を明確にし、文章の展開を工夫することができるかどうかをみる	60.2	62.7	65.0
3 四	書いた文章について、交流を基にして、「この文章の良い点や改善点」と「今後随筆を書くときに生かしたいこと」を書く	表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだすことができるかどうかをみる	39.8	40.8	45.0
2 二	話合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する	必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができるかをみる	58.5	67.6	70.4
4 二	国語辞典を参考にして、「ほうふつとさせる」と同じような内容を表す別の表現を文章中から抜き出す	語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることができるかをみる	29.2	32.9	35.2

国語では、記述問題については比較的簡単な問題に対しては書くことができていました。特に 3 二の問題では府平均を上回る正答率となりました。短答式の問題ではありますが、書いて表現することができていることから、表現の工夫をする力が少しずつ身に付いてきていると考えられます。記述問題についても大きな差はなく、条件を満たして書く力が徐々に定着してきています。一方で、3 一の語彙に関する問題は依然として弱い傾向が見られました。語彙力の向上については、漢字の使い分けと関連付けながら指導していく必要があります。また、4 二の文脈と同義のものを選ぶ問題では、文章が長くなると文脈を十分に捉えきれない様子が見られました。さらに、2 二の話合いの文脈を捉える問題は正答してほしい内容でしたが、結果からは文脈を捉える力の弱さが改めて課題として明らかになりました。

【克服すべき課題】

- ・語彙や文法などの知識・技能の面で正答率が低いため、日頃から語彙を増やし、適切な言葉を使う機会を充実させる必要があります。
- ・思考・判断・表現の観点では、文脈を捉える力の育成が最も重要な課題です。長い文章を正確に聞いたり読んだりできるよう、要約する活動や言葉の意味・定義を捉える活動を継続して行う必要があります。
- ・府平均と比較して突出して低い項目は少ないものの、全体的にやや低い傾向が見られます。そのため、基礎的な力の定着を図り、C 評価層の生徒を B 評価へ引き上げるための手立てを充実させていくことが今後の課題です。

【数学】

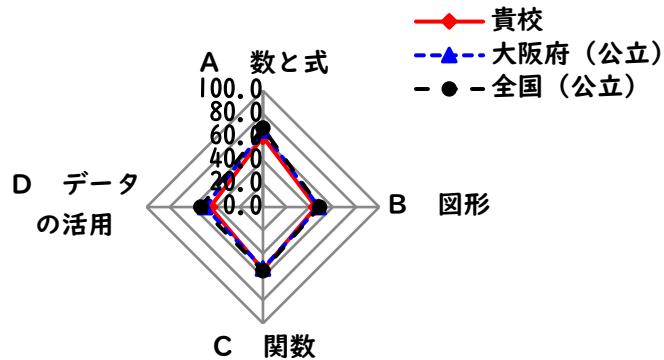
[グラフ 5] 全国学力・学習状況調査・学校(数学)

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
泉大津市立東陽中学校	170	8.3 / 16	52	8.0	4.8
大阪府(公立)	56,981	8.8 / 16	55	9.0	4.6
全国(公立)	842,491	9.1 / 16	57.0	10.0	4.5

[グラフ 6] 全国学力・学習状況調査・分類(数学)

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			貴校	大阪府（公立）	全国（公立）
全体		16	52	55	57.0
学習指導要領の 領域	A 数と式	5	60.2	65.6	67.8
	B 図形	4	45.6	48.0	48.7
	C 関数	3	54.1	52.8	54.8
	D データの活用	4	45.3	49.7	53.5
評価の観点	知識・技能	12	57.3	60.9	63.0
	思考・判断・表現	4	34.9	36.6	39.1
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	3	50.2	56.1	59.3
	短答式	9	59.7	62.6	64.2
	記述式	4	34.9	36.6	39.1

[グラフ 7] 全国学力・学習状況調査(数学) 正答率分布グラフ



問題 番号	問題の概要	出題の趣旨	貴校	大阪府 公立	全国 公立
1	2月3日のA市の最高気温が最低気温より何℃高くなったかを書く	具体的な場面において、正の数と負の数を用いて変化や状況を表すことができるかどうかをみる	83.5	85.5	85.7
2	$7x + 9 - 5x + 7x^2 + 2x$ から、 $7x$ の同類項をすべて書く	同類項の意味を理解しているかどうかをみる	70.6	69.5	70.5
3	四角形PQRSにおいて、PS平行QRを示すための根拠となる二つの角を書く	2直線が平行になるための条件を理解しているかどうかをみる	45.3	49.7	49.1
4	反比例の表において、 x の値が-3のときの y の値を求める	反比例の関係を表す表の特徴を捉えて、 x の値に対応する y の値を求めることができるかどうかをみる	58.8	54.1	55.3
5	大小二つのさいころを同時に投げるとき、大きいさいころの目が6で小さいさいころの目が1である確率を求める	起こり得る場合を樹形図や二次元の表を利用するなどして整理し、確率を求めることができるかどうかをみる	47.6	58.9	60.2
8(2)	図1において、 $AB=AP$ 、 $OB=OP$ ならば $\angle AOB = \angle AOP$ であることを、三角形の合同を基にして証明する	筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる	44.1	46.6	46.1
8(3)	図2において、証明する事柄における仮定となる辺や角の関係を選ぶ	具体的な事象を基に、証明する事柄の仮定を見いだすことができるかどうかをみる	32.4	34.3	37.1

数学では、**1**～**4**の小問については府平均・全国平均との差は大きくありませんでした。短い問題文の問いでは問題の意図を理解し、解答することができています。一方で、**5**のように問題文が長くなり、情報量が増えると正答率が低下する傾向が見られました。

⑧(2)、(3)については予想どおり正答率が低くなりました。作図の手順は示されていましたが、問題文から必要な条件を読み取り、その根拠を記述することに課題が見られました。解答には必要な条件や根拠の記述が不足していたり、根拠が適切に示されていなかったりするものが多くありました。

【克服すべき課題】

・問題解決の学習においては、単に答えを出すことだけでなく、「どのように考えたか」という思考の過程を大切にする力を育てていきたいと考えております。

・問題を解く際には、結果（答え）だけでなく、その過程を式や図、言葉を用いて表現し、生徒同士で互いに共有する活動を充実させてまいります。あわせて、「この問題では何が問われているのか」「どのように答えればよいのか」を正確に読み取る力を、日々の授業の中で意識的に育ててまいります。

【英語】

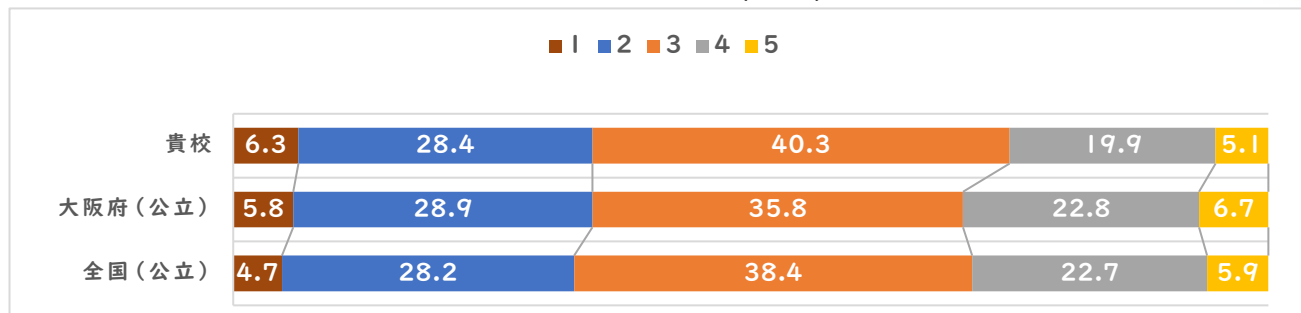
【グラフ 9】全国学力・学習状況調査(英語) 平均正答数集計値

	生徒数	平均正答数	標準偏差
泉大津市立東陽中学校	176	3.6 / 7	2.1
大阪府（公立）	57,227	3.7 / 7	2.1
全国（公立）	839,203	3.7 / 7	2.1

技能別平均正答数集計値

	聞くこと	読むこと・書くこと
泉大津市立東陽中学校	1.2 / 2	2.4 / 5
大阪府（公立）	1.1 / 2	2.5 / 5
全国（公立）	1.2 / 2	2.5 / 5

【グラフ 10】全国学力・学習状況調査 IRT分布グラフ(英語)



※ IRTとは、国際的な学力調査（PISA、TIMSSなど）や英語資格・検定試験（TOEIC・TOFEL など）で採用されているテスト理論です。

[グラフ 11] 全国学力・学習状況調査(英語) 問題集計結果

問題 番号	問題の概要	出題の趣旨	貴校	大阪府 公立	全国 公立
1	注文の場面での店員と客の会話を聞き、客が注文したものを選択する	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる	65.3	58.5	60.2
3	学校見学についての説明を聞き、行くべき場所を選択する	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	78.9	74.6	76.0
11 ①	与えられた情報に基づいて、留学生の昨日の出来事を説明する英文を書く	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる	60.2	58.8	58.9
11 ②			52.8	53.3	52.7
12	中学生になってからの思い出を 1 つ取り上げ、そこで体験したことと感想を書く	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる	44.6	43.7	47.5

[グラフ 12] 全国学力・学習状況調査(生徒質問) 問題集計結果

質問 番号	質問事項	学校	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば、 当てはまらない	当てはま らない
72	英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。	東陽	63.4	24.6	6.3	2.9
		大阪府	61.6	26.1	6.0	5.3
		全国	60.2	27.4	6.7	4.9
73	将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいですか	東陽	16.6	20.6	34.9	28.0
		大阪府	15.3	21.4	33.1	29.5
		全国	13.4	20.7	35.0	30.3
75	これまで、学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会が十分にありましたか(地域の人や外国にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビや動画、ホームページを見る、オンラインで他者と英語で交流する、英会話教室に通うなど)	東陽	19.4	18.3	29.1	31.4
		大阪府	18.3	21.6	27.0	31.8
		全国	16.2	20.4	28.4	34.1

今回の調査における全体的な平均正答数は、全国・大阪府と同水準を維持しています。中でも「聞くこと」領域の平均正答数は 1.2 問(全国 1.2 問／大阪府 1.1 問)となり、府の平均を上回る全国トップクラスの素晴らしい成果が見られました。この背景には、JET(英語指導員)による授業や取り組みが 3 年目を迎え、授業だけでなく学校生活全体に自然な英語が浸透してきたことがあります。日頃から英語に触れる機会が増えたことで、生徒たちが抵抗感なく英語を聞き取り、コミュニケーションを楽しむ姿勢がしっかりと定着しています。今後もこの「聞く力・話す力」の強みを活かしながら、全校で楽しく英語に親しめる環境づくりを続けていきます。

【課題】

・読解力や記述力を問う問題では、正答数が 5 問中 2.4 問(全国・府平均 2.5 問)と、あと一歩で平均に届く惜しい結果となりました。また、発展的な問題において、これまで順調に力をつけてきた生徒たちの伸び悩みが一部見られ、応用力をさらに高めていく必要性を実感しております。一人ひとりが文章の内容をじっくり読み解き、自分の言葉で自信を持って表現できるよう、日々の授業でのサポートをより一層充実させていきます。

【生徒質問】

[グラフ13] 全国学力・学習状況調査(生徒質問) 問題集計結果

質問 番号	質問事項	学校	できている	どちらかといえば できている	どちらかといえば、 できていない	できてい ない
22	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。	東陽	35.4	50.3	10.9	3.4
		大阪府	29.3	49.6	17.4	3.1
		全国	27.4	50.8	18.6	2.7
質問 番号	質問事項	学校	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば、 当てはまらない	当てはま らない
39	1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	東陽	29.7	53.1	12.0	3.4
		大阪府	27.7	50.0	17.5	3.7
		全国	27.0	51.8	17.4	2.9
40	1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。	東陽	27.4	44.6	21.1	4.0
		大阪府	23.7	45.8	21.2	5.4
		全国	23.1	47.7	21.6	4.4
41	1、2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。	東陽	30.9	50.9	13.1	2.3
		大阪府	25.2	51.6	15.0	4.1
		全国	25.3	53.6	14.7	3.2
44	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか	東陽	33.1	49.1	10.3	2.9
		大阪府	29.8	48.5	15.9	4.5
		全国	28.3	49.7	17.1	3.9

調査結果から、東陽中学校の生徒は自分で考え、進んで学習に取り組む力（自立・自律）が、全国や大阪府の平均と比べても大変すぐれていることが分かりました。「分からないことがあったときに自分で学び方を工夫する」と答えた生徒は85.7%（全国平均78.2%）に上り、「主体的に課題へ挑戦する」と答えた生徒も82.8%（全国平均78.8%）に達しています。自分に合わせた方法を工夫し、あきらめずに試行錯誤する姿勢がしっかり根付いている頼もしい姿が見えてきます。一方で、「学んだことを生かして自分の考えをまとめる活動を行えたか」という質問では、72.0%の生徒が肯定的に答えているものの、約4人に1人の生徒が「まだ十分に自分の考えを表現しきれていない」と感じていることも分かりました。一人ひとりが頭の中で考えたことを、言葉や式・図を使って分かりやすく整理し、友達に伝える活動（対話・共感・協働）をさらに増やしていくことが、今後の大きな成長のポイントです。

この課題を克服し、学びをさらに深いものにするため、今年度は「自分に合った学習調整（自己調整のある学習）」と「AIの効果的な活用」を取り入れた授業を進めてまいります。

具体的には、授業の中でタブレット端末やAIツールを活用し、一人ひとりが自分の理解度に合わせて問題やヒントを選び、納得いくまで解き進める「個別最適な学び」を実践します。「なぜその答えになるのか」という思考の過程を言葉や図で表現したりする取組みを大切にします。AIを賢く活用しつつ、最終的には人と人との対話を通して多角的な見方に触れることで、「共感」や「協働」の力を育てていきます。